

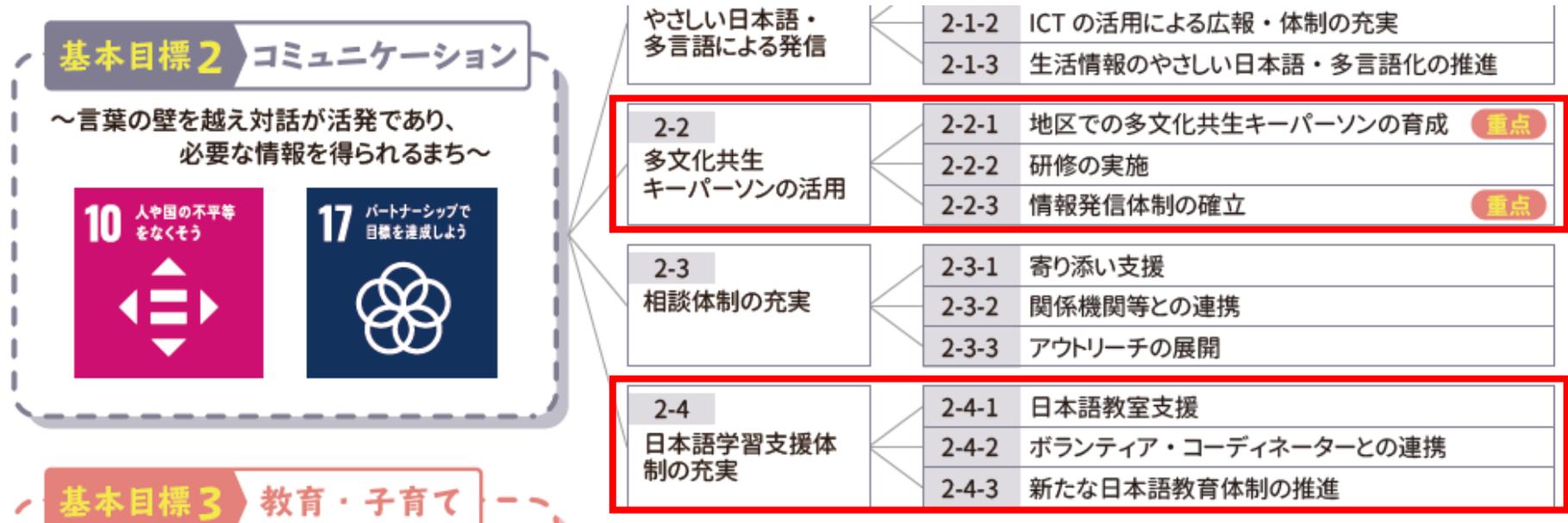
令和4年度～
「地域日本語教育推進事業」



◎ 趣旨・目的

- 1 外国人住民の日本語学習の機会を確保し、生活に必要な日本語能力の向上を図り、キーパーソンとしての活躍に繋げる。
- 2 日本語学習を通じた日本人・外国人相互の交流により、市民の多文化共生意識の向上を図る。
- 3 松本市の特徴を踏まえた地域日本語教育推進体制を構築する。

第3次松本市多文化共生推進プラン体系図



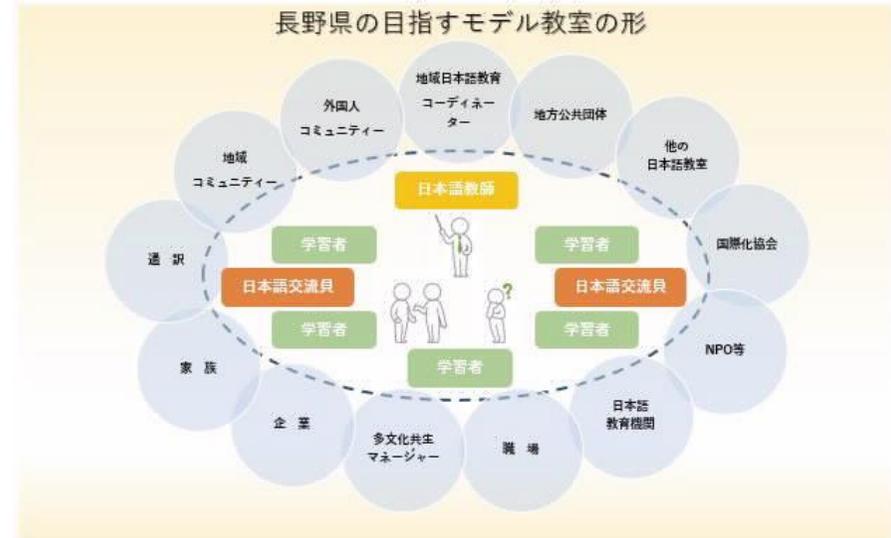


◎ 現状・ニーズ(1)

○国・県の動き

・令和元年6月に「日本語教育の推進に関する法律」が施行され、地方公共団体は、地域の状況に応じた施策を策定し、実施する責務を有するとされた。

・県は、令和元年度から文化庁の「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」に採択されており、長野県内の地域日本語教育の体制づくりとして、長野県の目指すモデル教室の形を示している。



○市内地域日本語教室の現状

1 実施状況

公民館等を会場に、12の教室がある。実施主体は、ボランティアグループ、NPO法人、公民館等さまざま。コロナ禍により、休止する教室も多い。

2 課題

- (1) 在住年数の長期化等によりニーズが多様化する中各学習者の目的に応じた学習や生活支援などのあらゆるニーズがボランティアに集中
- (2) 高齢化等によるボランティアスタッフの不足
- (3) コロナ禍による学習者の減少

市内日本語学習の場・手段 (大学・民間機関除く)	子ども	大人	
		初級	上級
日本語を母語としない児童生徒支援事業(学校教育課)	外国人就労・定着支援研修(厚労省)		
		つなひろ(文化庁)	
		いろいろり(国際交流基金)	
	既存の地域日本語教室		



上記法の趣旨・県が示すモデル教室・現状・ニーズを踏まえ、松本市の地域日本語教育の体制づくりを行う必要がある。



◎ 現状・ニーズ(2)

○松本市における外国人住民の特徴

- ・在住年数10年以上が、63.6%
- ・日本語「聞く」「話す」は、75%が日本人と同等か日常会話ならできる。
- ・「読む」「書く」には、困難さを抱える人が多い。

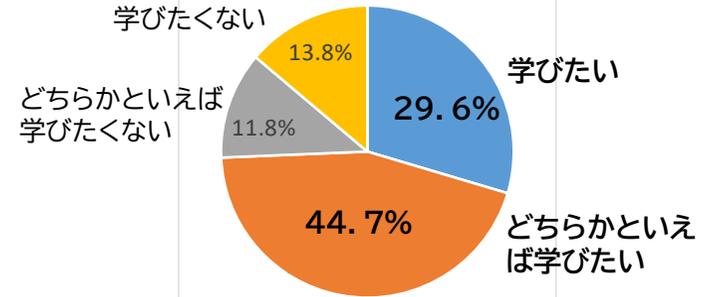
2019年実態調査(外国人住民アンケート)より

在住年数	1~5年	6~10年	10年以上
	24.3%	12.0%	63.6%

○地域日本語教育のニーズ

- ・75%の人が日本語を「学びたい」または「どちらかといえば学びたい」と答えており、日本語学習のニーズが高い。
- ・会話レベルが中上級レベルの方であっても、「読み書き」に困難さを感じる方もおり、日本語学習のニーズは高い。

Q 日本語を学びたいと思いますか



2014年実態調査(聞き取り調査)より一部抜粋

在留資格等	現在の日本語レベル	日本語学習ニーズ等
日本人の配偶者等	<ul style="list-style-type: none"> ・会話は中級という意識 ・「読み書き」は、ひらがな・カタカナと簡単な漢字のみ読める人が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族関係のニーズがある(子どもと自然に会話したい、夫とのコミュニケーション) ・実際に日本語学習に取り組んでいる人は少ない(日本語を学ぶ場が近くにない、仕事と家庭の両立、家族のサポートがある等) ・体系だって学んでいない日本語の不十分さを認識する一方、日本語教室における教科書指導でのコントロールされた会話・語彙に違和感を持つケースが散見された
定住者(主に日系ブラジル人)	<ul style="list-style-type: none"> ・会話は初級または中級 ・「読み書き」に大きな問題を抱える人が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブラジル人のみの職場で日本語を全く話さない等のケースがあり、日本人の配偶者と比べニーズが小さい。 ・職場の日本人から学んだ、子どもから学んだ人が多い。
外国人キーパーソン	<ul style="list-style-type: none"> ・会話は中級または上級 ・会話能力の高さから、日本人と協働する人も多いが、漢字等の「読み書き」に困難さを感じる人もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会話が中上級レベルでも、日本語を学習したいニーズは高い。 ・ある程度専門知識が必要とされる職に就き、初めて本格的な日本語学習の必要性を感じている人もいる。



◎ 内容(1)

オンライン日本語教室 の設置



国・県が示すモデル教室の形にならない、日本語教師が教え、日本語交流員が学習をサポートする形の教室を設置する。

松本市地域日本語教育 コーディネーターの設置



オンライン教室のカリキュラム作成・教室活動についての検討や、他の日本語教室・関係課等、教室内外の連携を行うコーディネーターを設置する。



◎ 内容(2)

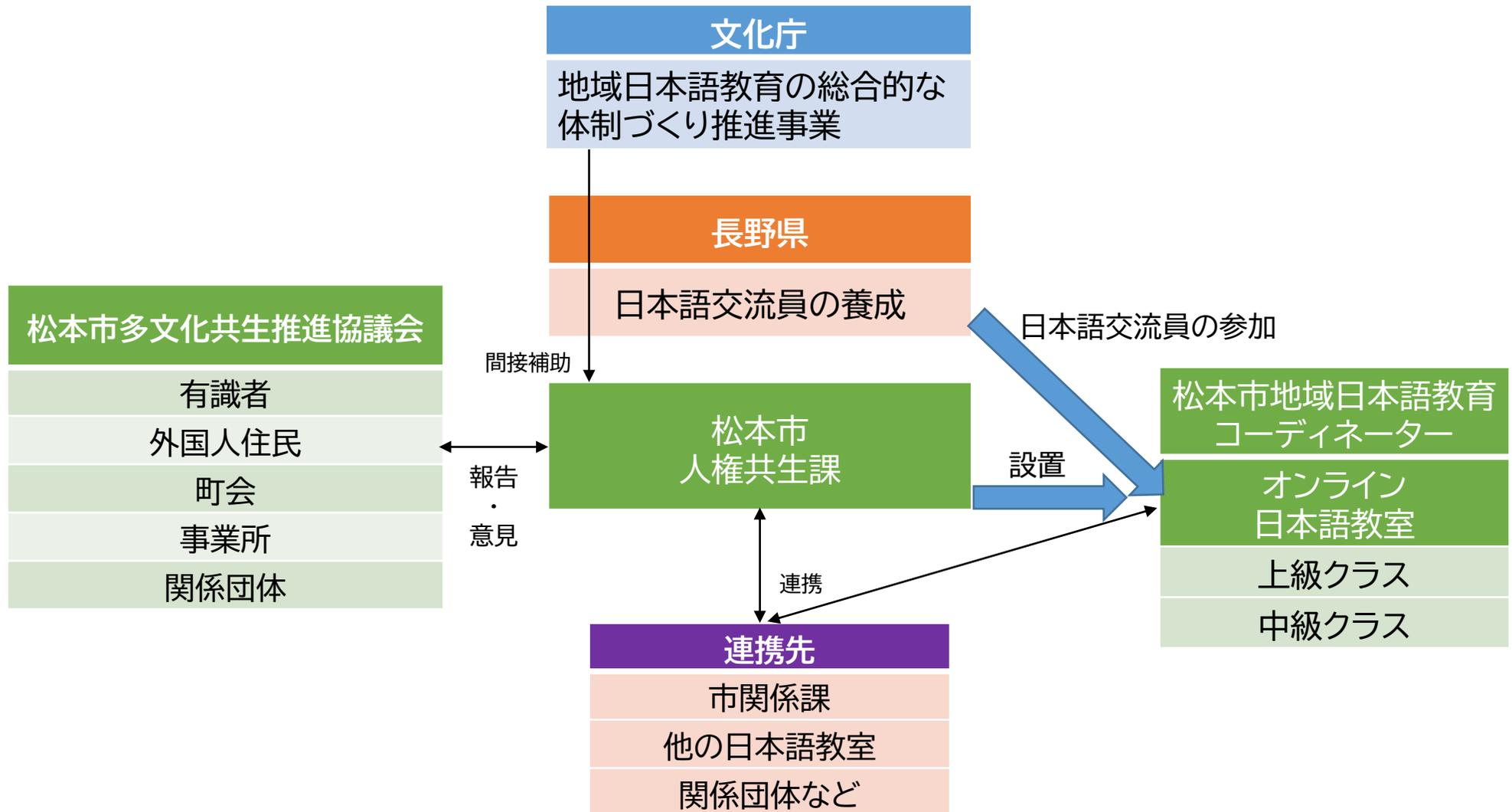
オンライン教室の概要	中級クラス(無料:定員15名)	上級クラス(無料:定員15名)
受講対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>中級レベル</u> ・外国人市民(18歳以上) ・在留資格不問 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>上級レベル</u> ・外国人市民(18歳以上) ・在留資格不問
開講時間	1回90分×10回	1回90分×10回
受講方法	Zoom	Zoom
教材	コーディネーター・教師が作成するオリジナル教材	コーディネーター・教師が作成するオリジナル教材
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語学習 ・生活、行政情報の学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語学習 ・生活、行政情報の学習

役割	役割分担
コーディネーター	オンライン教室のカリキュラム作成・教室活動について検討、関係機関との連携
日本語教師	カリキュラムを踏まえた日本語教育の実施、教室の運営
日本語交流員	日本語学習を通じた交流、日本語習得・地域参加のサポート



◎ 内容(3)

○目指す体制図





◎ 内容(4)

○補足説明

・オンライン開催

オンライン開催とすることで、他の日本語教室との差別化を図り、「教室が近くにない・足がない」こと等を理由に参加できない学習者・交流員の拾い上げを行う。また、感染拡大状況に関係なく教室運営が可能

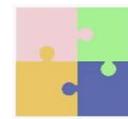
・教室のレベル設定

中上級レベルの設定とすることで、ニーズとも合致しており、学習者の日本語力向上により、今後松本市多文化共生キーパーソンとしての活躍が期待できる。また、レベルを分けることで、学習者の段階的な日本語能力の向上、教師の円滑な教室運営を図る。



・生活、行政情報の学習

地域社会でより生かせるよう、生活、行政情報をとおして日本語を学習することにより、生活者としての日本語力の向上と松本市多文化共生キーパーソンとしての地域社会での活躍を図る。



◎ 効果(到達点)、今後の予定

第3次プランの関連する成果指標

- 日本語教室の認知割合
- 普段の生活で「言葉が通じない」ことに困っている人の割合
- 外国人住民の地域活動への参加割合
- 外国人と何らかの関わりがある日本人住民の割合
- 今後、松本市に住み続けたいと思う外国人住民の割合

効果(到達点)

- ①外国人住民が学んだ日本語を用い、より深く地域社会に参加し、より多くの場面で能力を発揮できるようになること。
- ②日本語学習を通じた交流による日本人・外国人住民相互の多文化共生意識の向上
- ③教室参加を経た方が松本市多文化共生キーパーソンとして地域社会で活躍すること。



○令和4年度のスケジュール

- ・上半期 教材作成会議、周知・募集
- ・下半期 教室開催